平成 20、21 年度
中期目標の達成状況報告書
（別添資料）

平成２２年６月

鹿児島大学

目　　次

資料１　　学位（博士）の授与状況・・・・・・・・・・・・１

資料２－１　海外先進教育研究実践支援プログラム

（旧在外研究員制度）実施状況・・・・・・・・・１

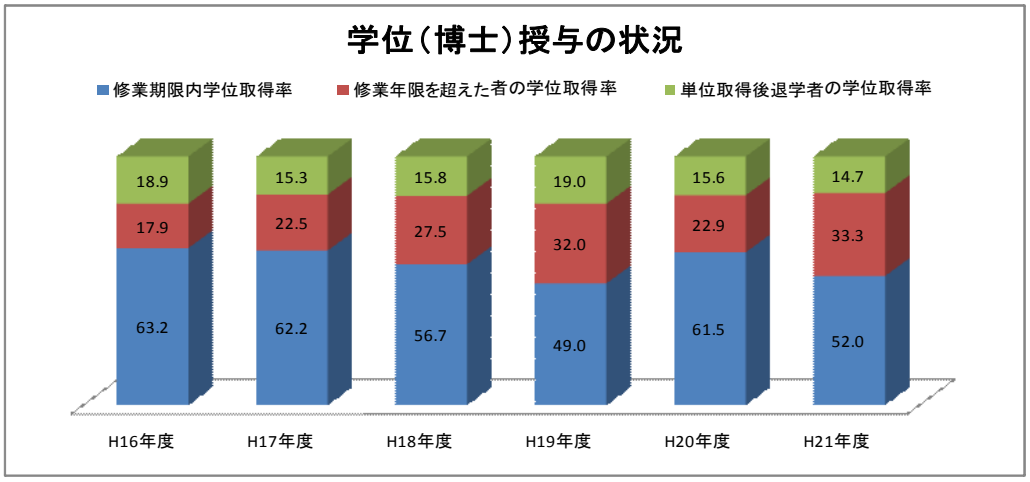
資料２－２　教員のサバティカル研修に関する規則・・・・・２

資料２－３　鹿児島大学若手教員海外研修支援事業・・・・・２

資料２－４　研究休職取得者の復帰後の主な研究業績・・・・２

資料１　学位（博士）の授与状況

年度	学位取得者数	修業期限内学位取得者数	修業期限内学位取得率	修業年限を超えた者の学位取得者	修業年限を超えた者の学位取得率	単位取得後退学者の学位取得者	単位取得後退学者の学位取得率
H16年度	95	60	63.2	17	17.9	18	18.9
H17年度	111	69	62.2	25	22.5	17	15.3
H18年度	120	68	56.7	33	27.5	19	15.8
H19年度	100	49	49.0	32	32.0	19	19.0
H20年度	109	67	61.5	25	22.9	17	15.6
H21年度	102	53	52.0	34	33.3	15	14.7



資料2-1：海外先進教育研究実践支援プログラム（旧在外研究員制度）実施状況

年度	部局名	職名	派遣国	派遣期間
16	法文学部	教授	カナダ	H17．3.15-H18．3.14
	法文学部	教授	韓国	H17．3.28-H18．3.27
	教育学部	教授	米国	H17．3.25-H17．9.23
	工学部	助教授	米国	H16.12.11-H17.10.10
	農学部	助教授	米国	H16.10.16-H17．7.17
	医学部・歯学部附属病院	講師	米国	H17．1.10-H17．7.27
17	新規公募なし（継続分のみを実施）			
18	農学部	助教授	米国	H18．9．1-H19．3.31
	医歯研	助手	米国	H18．9．1-H19．3.31
19	法文学部	教授	米国	H19．8.25-H20．3.24
	理学部	助教	米国	H19．7.23-H19.10.31
	工学部	助教	英国	H19．4.21-H20．3.31
20	教育学部	教授	オーストリア	H20．9.22-H21．2．1
	水産学部	助手	ノルウェー	H20．8.14-H21．3.15

資料２－２　国立大学法人鹿児島大学教員のサバティカル研修に関する規則（抜粋）

（趣旨）

第１条　この規則は、国立大学法人鹿児島大学（以下「本学」という。）における教員の教育研究の遂行に必要な資質の向上を図るため、教員自らが研究目標を定めて一定の期間にわたり研究に専念する研修（以下「サバティカル研究」という。）に関し、必要な事項を定めるものとする。

第３条　サバティカル研修に従事することのできる者は、次の各号のすべてに該当する者とする。

(1)　本学教員として、継続して勤務した期間が７年以上の者。

(2)　原則として、申請時に 60 歳未満の者

第５条　サバティカル研修の期間中は、各部局等の定めるところにより、教育、研究、管理及び運営に関する職務を免除することができる。

資料2-3：鹿児島大学若手（45歳以下）教員海外研修支援事業

部局	職名	年齢	研修期間		研修先	
			自	至	国	機関
法文学部	准教授	39歳	H22.3.28	H23.3.20	イギリス	ロンドン大学東洋アフリカ研究学院(SOAS)
					アメリカ	プリンストン大学東アジア研究学科
教育学部	准教授	41歳	H21.10.20	H22.3.28	フランス	ユルスリーヌ国際文化センター（ＣＩＴＵ）
医学部・保健学科	助教	36歳	H21.10.1	H22.10.1	アメリカ合衆国	Frances Payne Bolton School of Nursing, Case Western Reserve University
農学部	助教	44歳	H22.3.1	H22.9.30	スイス	スイス近自然学研究所
理工学研究科（理学系）	助教	36歳	H21.9.13	H22.4.8	オランダ	トゥエンテ大学（University of Twente)理工学部低温部門
理工学研究科（工学系）	助教	34歳	H21.11.1	H22.9.27	ニュージーランド	University of Canterbury

資料2-4　研究休職取得者の復帰後の主な研究業績

研究テーマ	学術誌、学会等	研究の概要
前立腺癌におけるがん抑制遺伝子RASSF1Aのエピジェネティックな変化に関して	第115回日本泌尿器科学会鹿児島地方会（他学会発表2件）	前立腺癌におけるがん抑制遺伝子RASSF1Aの発現抑制にDNAのメチル化ならびにヒストンが関与していることをはじめて明らかにした。以上の様なエピジェネティクな変化は癌の診断や再発、予後を予測するバイオマーカーとしての利用が期待される。
Increased expression of the collagen receptor discoidin domain receptor 2 in articular cartilage as a key event in the pathogenesis of osteoarthritis.	Arthritis Rheum. 2007 Aug;56(8):2663-73.	DDR2分子の関節軟骨における発現が、MMP13蛋白の分泌を亢進させ、変形性関節症の進行に重要であることを報告した。
腸管局所免疫におけるGLP-2の効果に関する研究	American Pediatric Surgery Association（アメリカ小児外科学会総会にて発表）, Time-dependent Effects of Early Stimulation with GLP-2 on intestinal adaptation.（他　学会発表1件、研究会発表1件、現在内容を投稿中）	短腸症候群モデルを作成し、GLP-2を腸管切除直後から投与した群と1週間後から投与した群では、直後にGLP-2を投与した群のほうが腸粘膜の状態が良好に保たれていた。
Nasal inoculation of an adenovirus vector encoding 11 tandem repeats of Abeta1-6 upregulates IL-10 expression and reduces amyloid load in a Mo/Hu APPswe PS1dE9 mouse model of Alzheimer's disease.	Journal of Gene Medicine（他　論文発表2件、学会発表7件）	上気道感染予防を目的とする系鼻粘膜免疫ワクチンの開発に向けて、樹状細胞をターゲットとした新しい粘膜アジュバントの研究を行った。米国アラバマ大学バーミングハム校免疫ワクチンセンターで研究していた複合DNAアジュバントが、経鼻粘膜免疫において強力なアジュバント活性を持つことが明らかとされたため、その臨床応用を目指した研究を続けている。
「古典的描画材を用いた絵画技法の研究」	絵画作品「行方」 S100号、テンペラ・油絵の具　第63回二紀展（於：六本木・国立新美術館）出品、二紀会同人推挙（他　作品発表2件、論文1件、学会ポスター発表1件）	絵画制作における代表的な古典技法であるフレスコ、テンペラ技法の詳細とその色材の調査を行った。その結果、現在の色材であるアクリル絵の具、また洋画制作の代表的色材である油絵の具との効果的な混合技法を把握することができたため、それらの技法を基に、作品制作を中心とした研究を行っている。